

特定健診受診者の医療受診状況と医療費に関する調査分析

平成 27 年 11 月

IT 推進部 データ分析推進グループ

調査の概要

本調査は、調査対象 280 組合の平成 26 年 5 月診療分レセプトデータ：103 万 5,835 件と平成 25 年度特定健診・特定保健指導データ：218 万 2,744 件を突合し、1) 健診レベル判定別の生活習慣病の医療受診状況、2) 特定健診受診者の医療受診疾病名(119 分類)、3) 健診検査値のリスク(メタボ、腹囲、血圧、血糖、脂質)有無別の 1 人当たり医療費、4) リスク有無別の総医療費に占める生活習慣病医療費の割合、5) 特定保健指導実施有無別の 1 人当たり医療費 について調査したものです。

なお、本調査の統計数値については、全組合を対象としたものではなく、対象組合が限られているため、偏りが生じている可能性もあること、また、医療費については年度計の 12 ヶ月分ではなく、平成 26 年 5 月診療分の 1 ヶ月分のみを対象にしている点にご留意ください。

調査実施結果のポイント

- 1) 健診レベル判定別に特定健診受診者の生活習慣病に関するレセプトの有無を調査したところ、「受診勧奨基準値以上」では全体の 12.40%が同レセプトのない者で、早期治療のための受診勧奨対象者となっている。また、逆に、全体の 1.75%が同レセプトのある者で重症化予防対象者となっている。(p.3)
- 2) 健診レベル判定が「肥満」で「受診勧奨基準値以上」の者の医療受診疾病名(119 分類)では、男性・女性ともに「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」、「高血圧性疾患」、「糖尿病」が上位を占めている。(p.5、p.6)
- 3) 健診検査値のリスク(メタボ、腹囲、血圧、血糖、脂質)有無別に 1 人当たり医療費を比較すると、リスクのある者のほうが医療費が高く、また、リスクがある者とならない者で最も医療費に差があるのは、男性では「血糖」、女性では「メタボ」となっている。(p.7、p.8)
- 4) リスク有無別に総医療費に占める生活習慣病医療費の割合をみると、「リスクあり」のほうが生活習慣病医療費の割合が高く、医科入院では「虚血性心疾患」、「脳血管障害」、医科入院外では「高血圧症」、「糖尿病」が高い割合を示している。(p.9、p.10)
- 5) 特定保健指導実施の有無による 1 人当たり医療費を比較すると、医科入院・入院外ともに未実施者において医療費が高い傾向にある。(p.11、p.12)

対象データの概要

平成 26 年 5 月診療分レセプトデータ

合計	受診者数(人)	レセプト件数(件)	診療実日数(日)	医療費(円)
計	783,348	1,035,835	1,561,035	23,049,207,080
入院	12,201	12,449	105,577	6,072,921,380
入院外	780,839	1,023,386	1,455,458	16,976,285,700

平成 25 年度特定健診・特定保健指導データ

年齢階層別 健診受診者数・非受診者数

年齢階層	健診受診者			健診非受診者		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
合計	2,136,287	1,386,444	749,843	46,457	26,866	19,591
40～44歳	557,430	355,386	202,044	14,339	7,443	6,896
45～49歳	499,366	324,268	175,098	11,228	5,717	5,511
50～54歳	412,194	265,876	146,318	7,884	4,631	3,253
55～59歳	331,423	218,464	112,959	6,279	4,491	1,788
60～64歳	228,988	155,776	73,212	4,621	3,300	1,321
65歳～	106,886	66,674	40,212	2,106	1,284	822

年齢階層別 保健指導実施者数・未実施者数

年齢階層	保健指導実施者			保健指導未実施者		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性
合計	56,629	50,855	5,774	2,079,658	1,335,589	744,069
40～44歳	15,677	14,351	1,326	541,753	341,035	200,718
45～49歳	15,209	13,735	1,474	484,157	310,533	173,624
50～54歳	11,654	10,399	1,255	400,540	255,477	145,063
55～59歳	8,471	7,486	985	322,952	210,978	111,974
60～64歳	4,179	3,674	505	224,809	152,102	72,707
65歳～	1,439	1,210	229	105,447	65,464	39,983

1. 健診レベル判定別の生活習慣病の医療受診状況

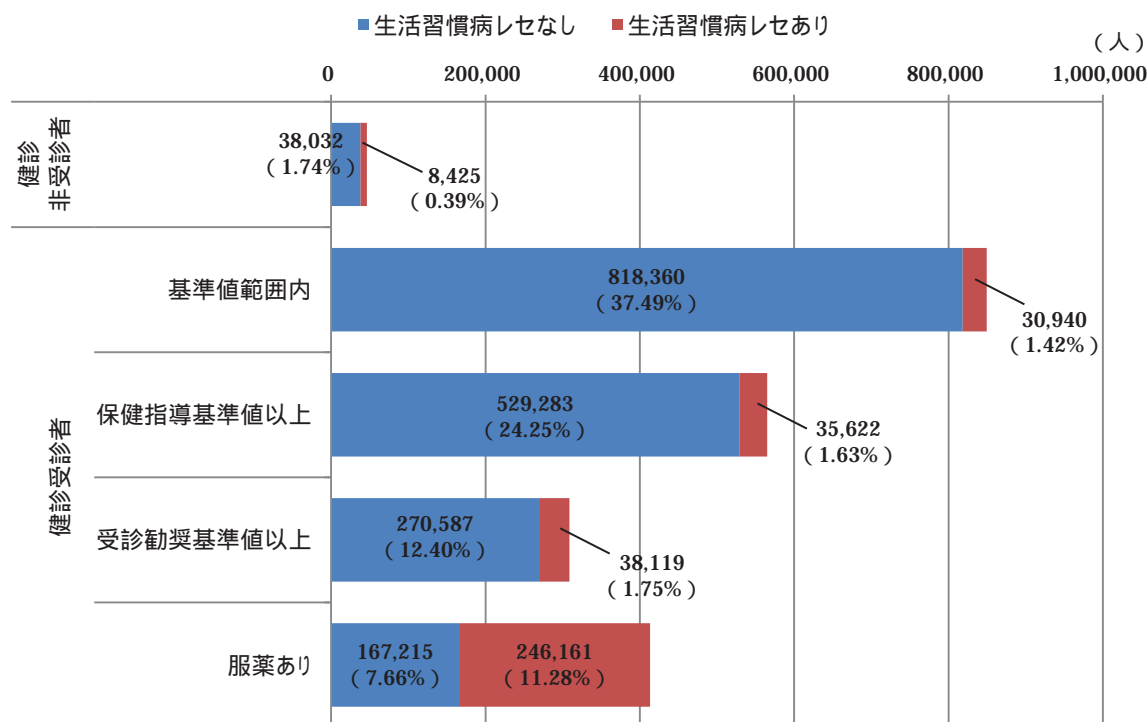
グラフは、特定健診対象者：218万2,744人のうち、特定健診受診者：213万6,287人と特定健診非受診者¹：4万6,457人について、生活習慣病レセプト²の有無を調査したものである（以下、カッコ内は特定健診対象者に占める割合）。

健診レベルが「保健指導基準値以上」では、52万9,283人（24.25%）が生活習慣病レセプトのない者、3万5,622人（1.63%）が生活習慣病レセプトのある者となっている。

健診レベルが「受診勧奨基準値以上」では、27万587人（12.40%）が生活習慣病レセプトのない者で、早期治療のための受診勧奨の対象者となっている。また、3万8,119人（1.75%）が生活習慣病レセプトのある者で、重症化予防の対象者となっている。

男女別にみると、健診レベルが「受診勧奨基準値以上」で生活習慣病レセプトのない者（＝早期治療のための受診勧奨対象者）は、男性：21万5,829人（15.27%）、女性：5万4,758人（7.12%）となっている。また、生活習慣病レセプトのある者（＝重症化予防対象者）は、男性：3万26人（2.12%）、女性：8,093人（1.05%）となっている（p.4）。

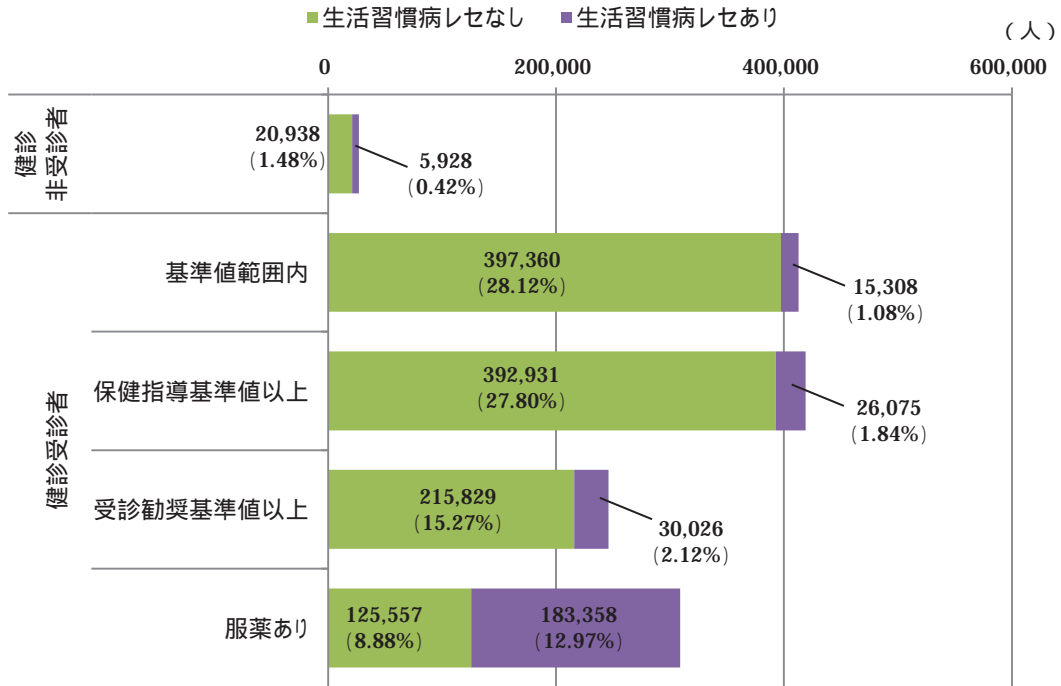
【男女計】



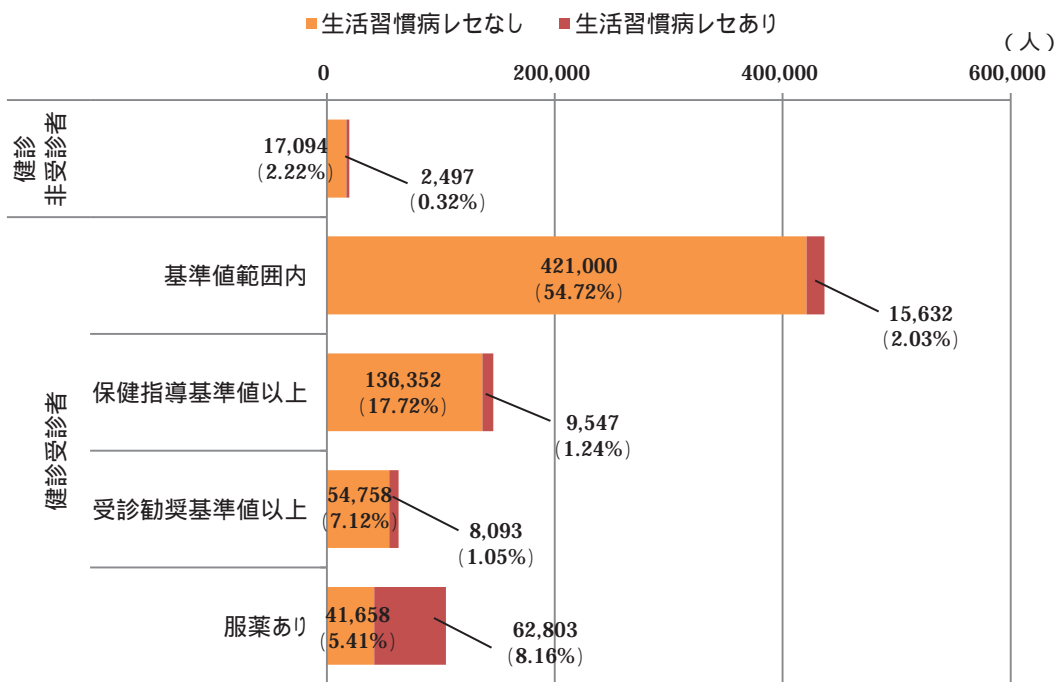
¹ 健診非受診者：評価対象者のうち、肥満／非肥満の判定ができない受診者。

² 本調査で取り扱う生活習慣病は、糖尿病、脳血管障害、虚血性心疾患、動脈閉塞、高血圧症、高尿酸血症、高脂血症、肝機能障害、高血圧性腎臓障害、人工透析である。なお、レセプトは平成26年5月診療分である（以下、同じ）。

【男性】



【女性】



2-1. 特定健診受診者の医療受診疾病名(119分類)【男性】

表は、特定健診受診者<男性>の健診レベル判定別の医療受診上位10疾病(119分類)を抽出したものである。

「非肥満」の「保健指導基準値以上」では、その他の消化器系の疾患、その他の神経系疾患、胃炎及び十二指腸炎の順に多く、「受診勧奨基準値以上」では、高血圧性疾患、その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、その他の消化器系の疾患の順に多い。また、「服薬投与」では、高血圧性疾患、その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、糖尿病の順となっている。

一方、「肥満」の「保健指導基準値以上」では、その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、その他の神経系の疾患、その他の消化器系の疾患の順に多く、「受診勧奨基準値以上」では、その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、高血圧性疾患、糖尿病の順に多い。また、「服薬投与」では高血圧性疾患、その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、糖尿病の順となっている。

医療費の上位疾病 男性

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
非肥満	基準範囲内	その他の消化器系の疾患	アレルギー-性鼻炎	その他の神経系の疾患	胃炎及び十二指腸炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	屈折及び調節の障害	皮膚炎及び湿疹	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の急性上気道感染症	その他の眼及び付属器の疾患
	保健指導基準値以上	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患	胃炎及び十二指腸炎	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	アレルギー-性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	屈折及び調節の障害	その他の眼及び付属器の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症
	受診勧奨基準値以上	高血圧性疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の消化器系の疾患	胃炎及び十二指腸炎	糖尿病	その他の神経系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー-性鼻炎	屈折及び調節の障害	その他の眼及び付属器の疾患
	服薬投与	高血圧性疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	胃炎及び十二指腸炎	その他の神経系の疾患	アレルギー-性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の肝疾患	その他の心疾患

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
肥満	基準範囲内	その他の神経系の疾患	アレルギー-性鼻炎	その他の消化器系の疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	胃炎及び十二指腸炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症	屈折及び調節の障害	その他の眼及び付属器の疾患
	保健指導基準値以上	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の神経系の疾患	その他の消化器系の疾患	アレルギー-性鼻炎	胃炎及び十二指腸炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	屈折及び調節の障害	その他の眼及び付属器の疾患	その他の急性上気道感染症
	受診勧奨基準値以上	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	高血圧性疾患	糖尿病	その他の神経系の疾患	その他の消化器系の疾患	胃炎及び十二指腸炎	アレルギー-性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の肝疾患	屈折及び調節の障害
	服薬投与	高血圧性疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患	アレルギー-性鼻炎	その他の肝疾患	胃炎及び十二指腸炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の心疾患

2-2. 特定健診受診者の医療受診疾病名(119分類)【女性】

表は、特定健診受診者<女性>の健診レベル判定別の医療受診上位 10 疾病(119 分類)を抽出したものである。

「非肥満」の「保健指導基準値以上」では、 胃炎及び十二指腸炎、 アレルギー性鼻炎、 その他の消化器系の疾患 の順に多く、「受診勧奨基準値以上」では、 高血圧性疾患、 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、 胃炎及び十二指腸炎 の順に多い。また、医療費の発生している「服薬投与」では、 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、 高血圧性疾患、 その他の消化器系の疾患 の順となっている。

一方、「肥満」の「保健指導基準値以上」では、 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、 アレルギー性鼻炎、 胃炎及び十二指腸炎 の順に多く、「受診勧奨基準値以上」では、 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、 高血圧性疾患、 アレルギー性鼻炎 の順に多い。また、「服薬投与」では、 高血圧性疾患、 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患、 糖尿病 の順となっている。

医療費の上位疾病

女性

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
非肥満	基準範囲内	アレルギー性鼻炎	胃炎及び十二指腸炎	その他の消化器系の疾患	屈折及び調節の障害	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の神経系の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の眼及び付属器の疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
	保健指導基準値以上	胃炎及び十二指腸炎	アレルギー性鼻炎	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	屈折及び調節の障害	その他の眼及び付属器の疾患	皮膚炎及び湿疹	良性新生物及びその他の新生物
	受診勧奨基準値以上	高血圧性疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	胃炎及び十二指腸炎	その他の消化器系の疾患	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の神経系の疾患	屈折及び調節の障害	その他の眼及び付属器の疾患	皮膚炎及び湿疹
	服薬投与	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	高血圧性疾患	その他の消化器系の疾患	胃炎及び十二指腸炎	その他の神経系の疾患	アレルギー性鼻炎	糖尿病	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	腫瘍症及び坐骨神経痛	その他の眼及び付属器の疾患

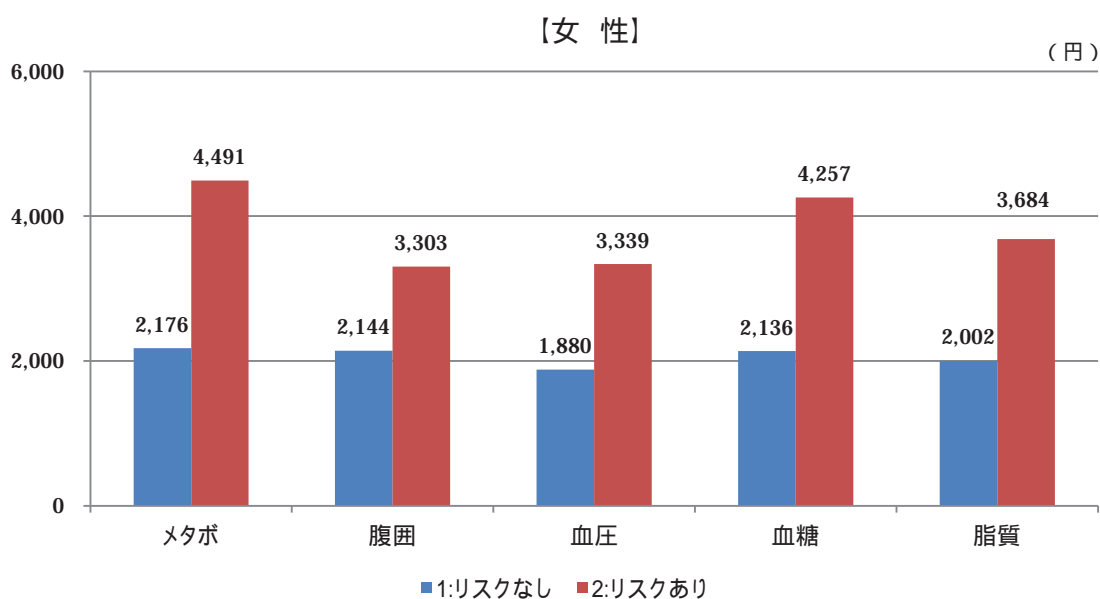
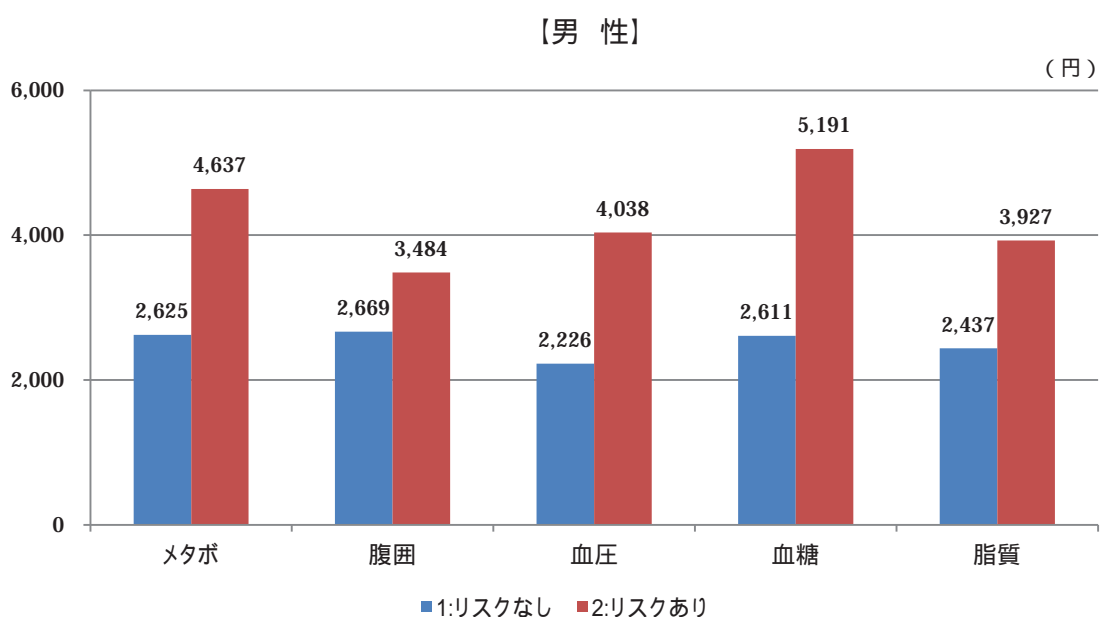
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
肥満	基準範囲内	アレルギー性鼻炎	胃炎及び十二指腸炎	その他の消化器系の疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の神経系の疾患	皮膚炎及び湿疹	屈折及び調節の障害	良性新生物及びその他の新生物	その他の眼及び付属器の疾患
	保健指導基準値以上	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	アレルギー性鼻炎	胃炎及び十二指腸炎	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	屈折及び調節の障害	その他の眼及び付属器の疾患	良性新生物及びその他の新生物
	受診勧奨基準値以上	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	高血圧性疾患	アレルギー性鼻炎	糖尿病	胃炎及び十二指腸炎	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	屈折及び調節の障害	皮膚炎及び湿疹
	服薬投与	高血圧性疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	アレルギー性鼻炎	胃炎及び十二指腸炎	その他の神経系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の肝疾患	腫瘍症及び坐骨神経痛

3-1. 健診検査値のリスク有無別の1人当たり医療費【医科入院】

グラフは、「メタボ」・「腹囲」・「血压」・「血糖」・「脂質」の健診検査値リスク有無別に医科入院の1人当たり医療費を比較してみたものである。

男性では、最も医療費に差があるのは「血糖」で、リスクあり:5,191円、リスクなし:2,611円とほぼ二倍の開きがあり、次いで、「メタボ」、「血压」、「脂質」、「腹囲」-の順となっている。

一方、女性では、最も医療費に差があるのは「メタボ」で、リスクあり:4,491円、リスクなし:2,176円と二倍以上の開きがあり、次いで、「血糖」、「脂質」、「血压」、「腹囲」の順となっている。

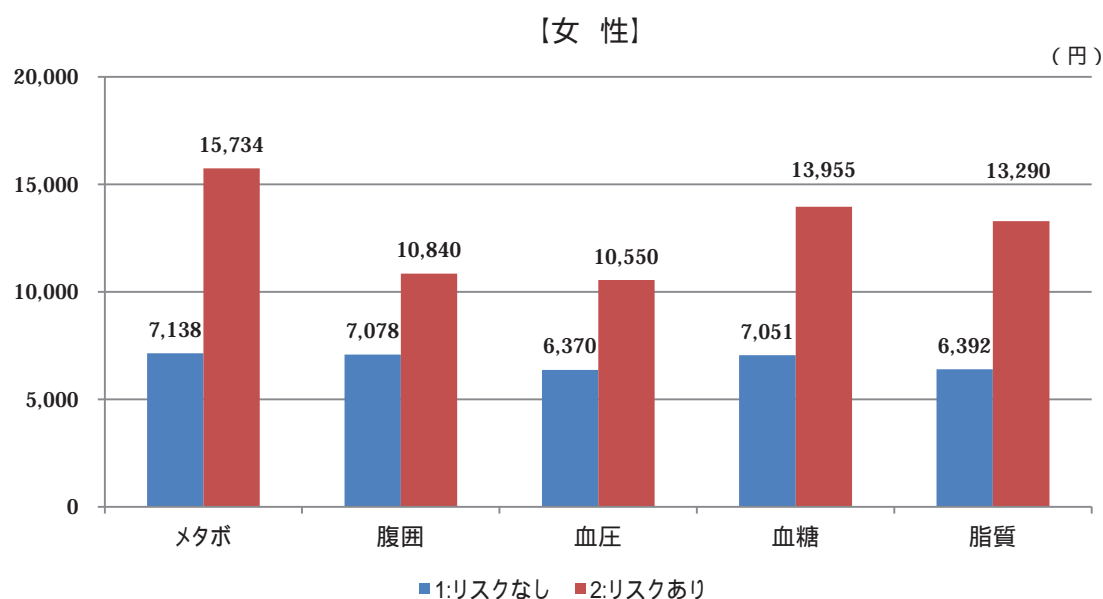
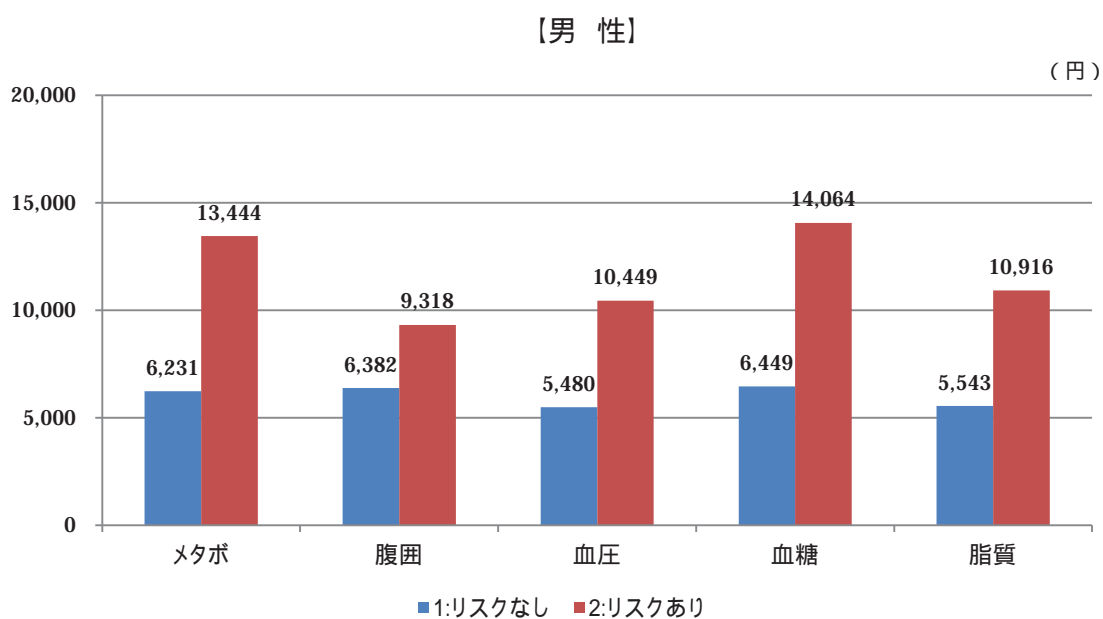


3-2. 健診検査値のリスク有無別の1人当たり医療費【医科入院外】

グラフは、「メタボ」・「腹囲」・「血压」・「血糖」・「脂質」のリスク有無別に医科入院外の1人当たり医療費を比較してみたものである。

男性では、最も医療費に差があるのは「血糖」で、リスクあり:1万4,064円、リスクなし:6,449円と二倍以上の開きがあり、次いで、「メタボ」、「脂質」、「血压」、「腹囲」の順となっている。

一方、女性では、最も医療費に差があるのは、「メタボ」で、リスクあり:1万5,734円、リスクなし:7,138円と二倍以上の開きがあり、次いで、「血糖」、「脂質」、「血压」、「腹囲」の順となっている。

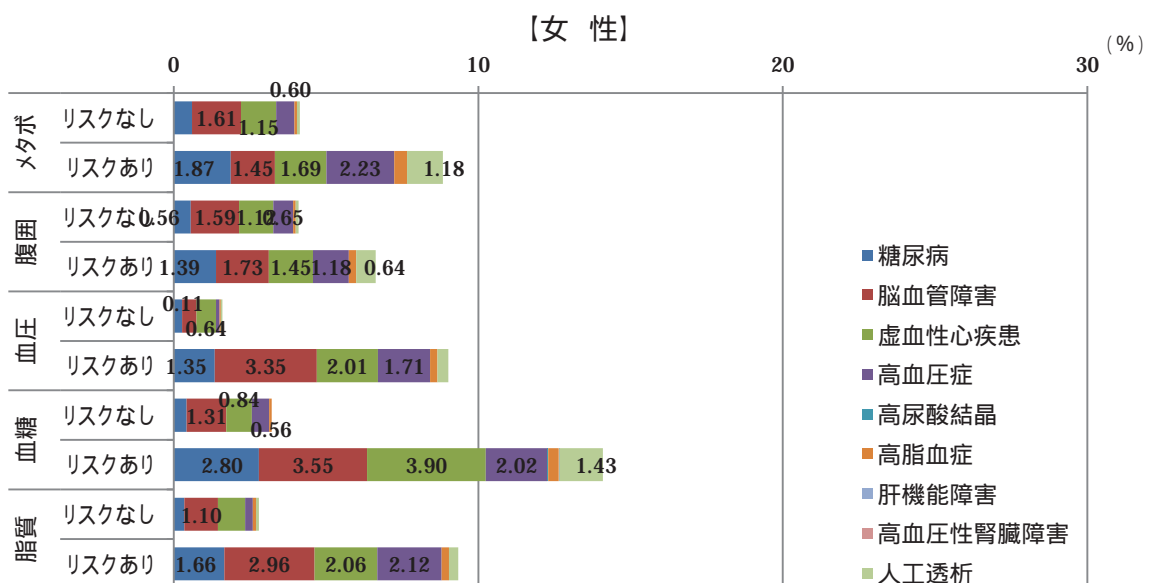
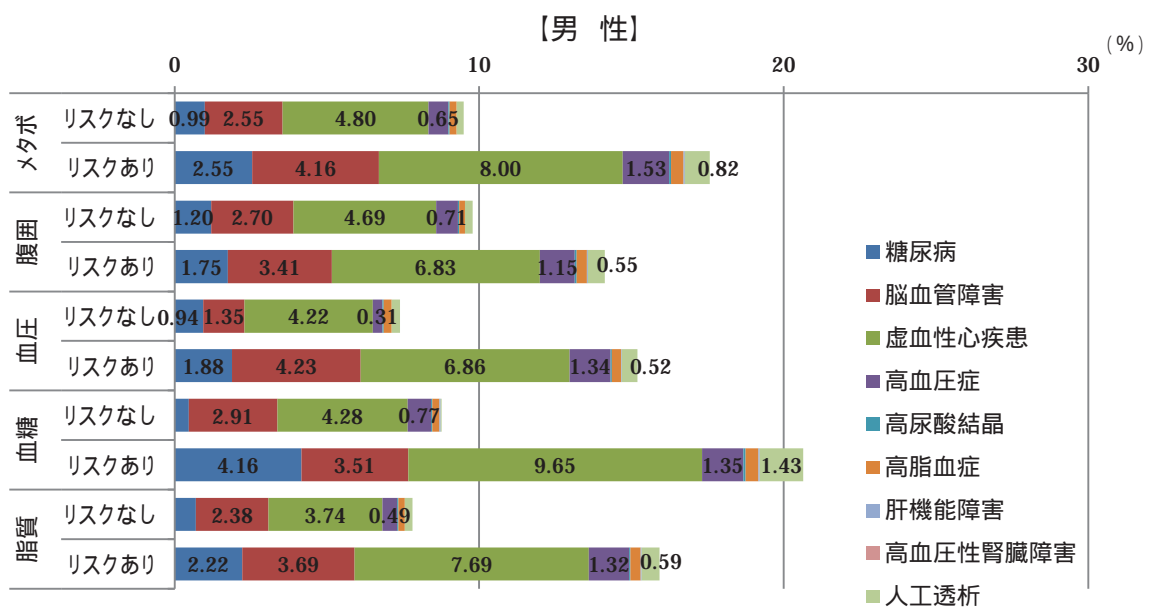


4-1. リスク有無別の総医療費に占める生活習慣病医療費の割合【医科入院】

グラフは、「メタボ」・「腹囲」・「血圧」・「血糖」・「脂質」のリスク有無別に総医療費に占める生活習慣病医療費の医科入院における割合をみたものである。

男性・女性ともに「リスクあり」のほうが総医療費に占める生活習慣病医療費の割合が高く、男性では「血糖」、「メタボ」、「脂質」の順に高い。また、女性でも「血糖」が最も高く、次いで、「脂質」、「メタボ」の順となっている。

「リスクあり」の生活習慣病医療費割合の内訳をみると、男性では、虚血性心疾患の割合が最も高く、次いで、脳血管障害、糖尿病の順となっている。また、女性では脳血管障害、虚血性心疾患、高血圧症が上位を占めている。



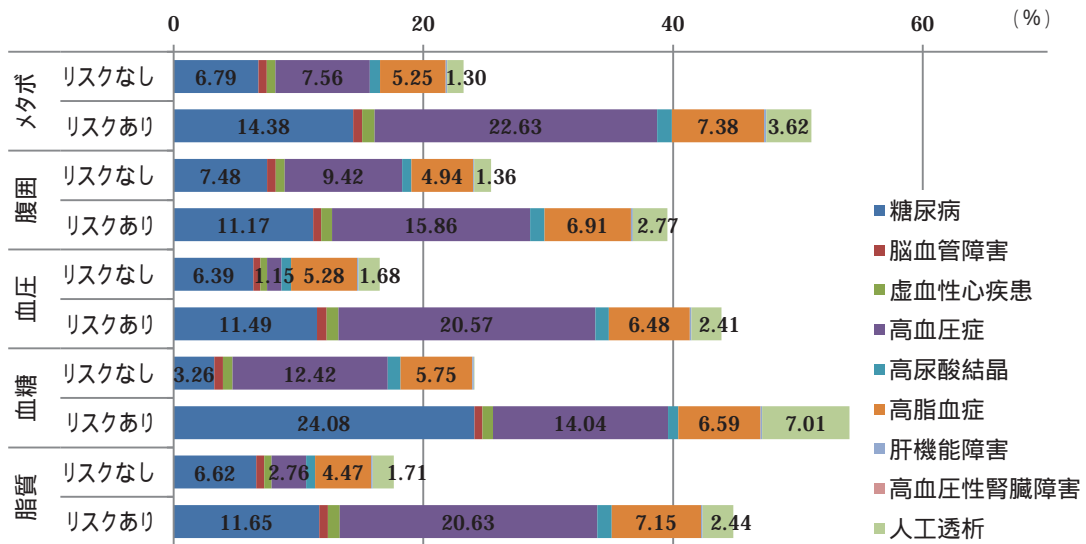
4-2. リスク有無別の総医療費に占める生活習慣病医療費の割合【医科入院外】

グラフは、「メタボ」・「腹囲」・「血圧」・「血糖」・「脂質」のリスク有無別に総医療費に占める生活習慣病医療費の医科入院における割合をみたものである。

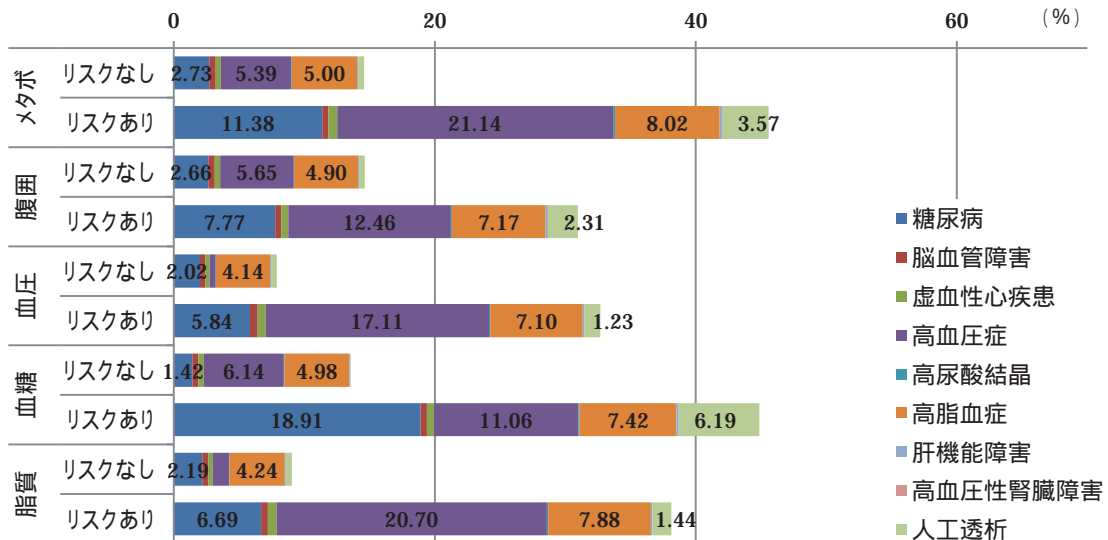
男性・女性ともに「リスクあり」のほうが総医療費に占める生活習慣病医療費の割合が高く、男性では「血糖」、「メタボ」、「脂質」の順に高い。また、女性では「メタボ」が最も高く、次いで、「血糖」、「脂質」の順となっている。

「リスクあり」の生活習慣病医療費割合の内訳をみると、男性では、高血圧症の割合が最も高く、次いで、糖尿病、高脂血症の順となっている。また、女性でも高血圧症が最も高いほか、高脂血症、糖尿病が上位を占めている。

【男性】



【女性】

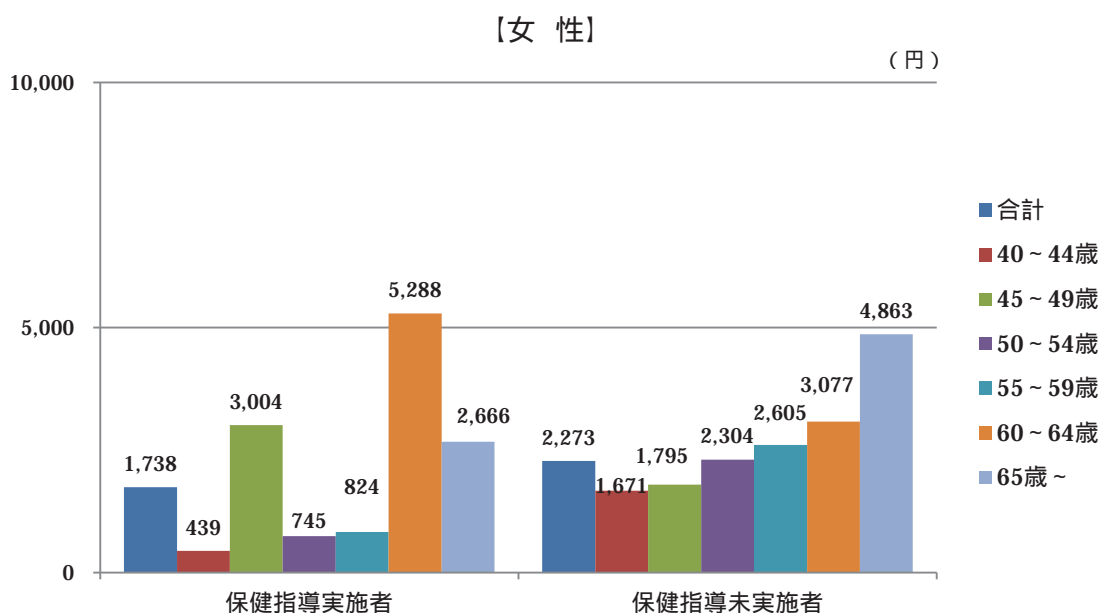
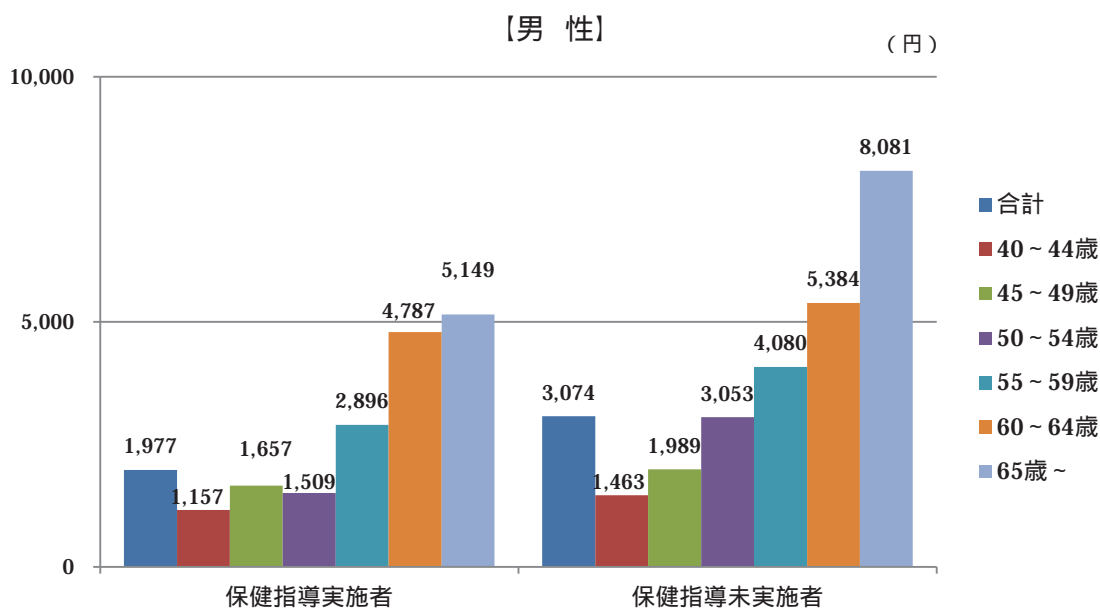


5. 特定保健指導実施有無別の1人当たり医療費【医科入院】

グラフは、特定保健指導実施の有無による医科入院の1人当たり医療費を比較したものである。

男性：「合計」では、特定保健指導実施者：1,977円に対して、未実施者：3,074円となっており、未実施者のほうが高い。また、各年齢階層を比較しても未実施者のほうが高い傾向にある。

女性：「合計」では、特定保健指導実施者：1,738円に対して、未実施者：2,273円となっており、未実施者のほうが高い傾向にある。



5. 特定保健指導実施有無別の1人当たり医療費【医科入院外】

グラフは、特定保健指導実施の有無による医科入院外の1人当たり医療費を比較したものである。

男性：「合計」では、特定保健指導実施者：4,985 円に対して、未実施者：7,798 円となっており、未実施者のほうが高い。また、各年齢階層を比較しても未実施者のほうが高い傾向にある。

女性：「合計」では、特定保健指導実施者：6,910 円に対して、未実施者：7,488 円となっており、未実施者のほうが高い傾向にある。

